

なるしろ村に夏がきた

園長 高嶋 邦幸

成城学園初等学校は、日本でも有数の劇教育のメッカの学校です。3年生以上に正課としての「劇の時間」があり、年間三回の劇の会では各クラス1回の劇公演が持たれ、教員が書いた台本の劇や児童創作劇などが上演されます。多くの教員が台本をものにしており、私でさえ2本書いて上演もしました。汗顔の至りです。

「なるしろ村」はそうした書き手の代表的なひとり加藤陸雄教諭のアイデアです。つまり「なる＝成、しろ＝城」、成城の読み替えになっています。うまいなあ、と思ったのは、その村は勿論成城に似ていて、どこか見知った連中が、楽しく暮らしている、と即座にしかも様々にイメージが湧くからです。たくさんのストーリーが思い浮かびそうです。

成城幼稚園てなんだか村のようなところだなあ、と思った時、自然に「なるしろ村」が出てきました。元祖には申し訳ないのですが、幼稚園を勝手に「なるしろ村」と呼び、そして私はもちろん村長さんに収まるわけです。

さて、そのなるしろ村もいよいよ夏の気配、どうやら年長さんの伊勢原宿泊保育の期間中に梅雨が明けそうです。昨日(7/13)、セミの抜け殻を持ってきてくださったお子さんがいました。きっととても大事なものだと思うのですが、その気持ちがいれなくてありがたく頂戴しました。本年第1号のセミ便りです。

セミといえば、皆さんには夏休み中の園庭をご覧いただけないのが残念ですが、下の庭のあちこちにボコボコと直径8ミリくらいの穴が開く時期があります。その頃の木々から聞こえる鳴き声のけたたましさはすさまじく、ですが、その割には不快でないのは何故か、むしろ一種独特の静寂を感じたりするのが不思議です。失礼ながら大グラの拡声器のほうが耳障りです。

百日紅は真夏に花を咲かせますので、これまたご覧になる機会がない。ご承知



の通り百日紅（サルスベリ）はその名のとおり木肌がつつるつつして全体およそ色気のない木ですが、花は文字通り鮮やかです。百日紅が咲く頃、子ども達のいない真夏の園庭はもの皆その陰影濃く、あたりの空間はセミの声に満ちています。その中にたたずむと、独特の感覚に包まれることがある。おそらくは、このような夏を初めて体験した時の原初感覚といえるようなもの。感動、美、そして命のおおもと。

なるしろ村、子ども達は日々この空間を呼吸し、そして感動の種や美の根っこ、命の泉を育てているのです。夏休み中、どこか他の素敵な空間を訪れて異なったかおりを呼吸してくるのもいいと思いますが、もし、園庭付近を通りかかり、たまたま私が居合わせたら、一緒に百日紅を見上げてみませんか。

今夏、昨年、新型インフルエンザの流行で取りやめにした海外研修に行っておりません。イタリアを中心にしたツアーです。どちらかといえば世界遺産めぐり風な内容ですが、何よりそれぞれの空間を深く呼吸してこようと思っています。外国にはおよそ縁がない私ですが、その分吸収率が高く、鮮度の良い空間を大量に吸い取ってくるような感じがしています。音楽祭や演奏会は予定に入っておりませんが、イタリア語は存分に聞けるでしょう。すべての言語の中でイタリア語が一番好きです。おそらくはその音楽的な音声が心地よいのだと思います。そういいながら、イタリア語を読み上げることはできるものの、でも、しゃべれません。

数少ない海外旅行から思うのは、これまた原初体験だということです。これを書きながら、前回のザルツブルクのことがフラッシュバックのように頭をよぎります。旅というものの私にとっての意味は、新たな感動、美、そして命のおおもととの出会いといっていいいでしょうか。

☆1学期の安全安心の一番のトピックは、仙川沿いの道路が整備され、道幅が広くなり、鉄柵がよりしっかりしたものに交換され、しかもバイク進入禁止になったことです。聞くとところによると一般道ではなく河川敷の一種なのだとか。昨年あたりから区のほうにお願いしていましたが、こんなに早く改善していただけて驚いています。大変ありがたいことです。

父母の会の安全安心委員の方々とは今後一層の連携をとる方向で確認しております。2学期以降形になってくるものと期待しております。

なにより大事なのは皆様の安全への意識です。

皆様ご無事で、どうぞ良い夏休みを！